



Subaru

男声合唱団

ニュース734

'20. 6. 27

「昂」7月より合唱活動の再開をめざして！「3密」を回避し・防止の工夫を！！

□ 昂団員の皆さん

男声合唱団「昂」運営委員会

新型コロナウイルス問題は、日々状況を変えながら、相変わらず合唱をする者にとって、様々な困難を与え続けていますが、本日6月21日、昂は、12名の参加により運営委員会を開催し、今後の対応について議論しました。

以下に決定事項をお知らせするとともに、皆さんから早急にご返事をいただきたい事項があります。ただちにご回答くださるようお願いいたします。

1. 定例レッスンについて

最大限の感染防止対策を施すことを前提に、7月から定例レッスンを再開します。

ただし、ねむかホールでの最大人数を、現場での検証に基づき、24名と設定しました。

レッスンへの参加人数を聞き取りにより把握し、24名を超える場合は、2つのグループ（各パートごとA,Bに）に分けて、第1金曜はA、第3金曜はB、第3日曜は遅出と早出というふうに分けて練習します。

グループ分けが必要かどうかを判断するために、7月からの定例レッスンに参加できるかどうかの回答を、早急にメールまたは電話でください。パートリーダーからも必要に応じて聞き取りを行います。

※ 練習参加にあたって、守っていただきたいこと。

- ・自宅を出る前に、必ず体温測定をしてきてください。
- ・マスクは必ず着用してください。
- ・ねむかホールに入室の際には、非接触型の体温測定も行います。

（日程表参照）

2. パートレッスン

T1, T2, Br・Bsのパートレッスンも以前同様再開します。（日程表参照）

3. 声楽教室

中村教室、千秋教室ともに再開します。（日程表参照）

4. 昂・団総会

当初8月3日に予定していた総会は、8月30日（日）14:00～ねむかホールに、変更開催します。

5. 団費について

レッスンをほぼ通常に戻すことに伴い、団費は、3000円/月に戻します。以上
2020年6月21日 （文責:山本宏司）

6月21日開催の運営委員会にて検討された当面のスケジュールです。新型コロナウイルス感染拡大状況の変化により、変更されていく可能性がありますので、ご注意ください。

7月より「昴」のすべてのレッスンを再開します。

練習へ参加する・しないは、各自で自主的に決めて、各パートリーダーへ連絡して下さい。

練習時、お互いに前後左右の間隔を、**1.5m空けて**行なうことになり、椅子の配置が変わります。指定された位置での練習に、ご協力をお願いします。

6/21の運営委員会にて検討された結果、ねむかホールの広さでは、隅々までいっぱい広がって練習する場合、歌い手の最大収容人数は、24人と見積もられました。

パートレッスン・声楽教室は十分な余裕があるので、それぞれ全員参加で行なえます。

全員が集まる定例レッスンは、出席予定者数が24名を超えると予想される場合、全員揃っての練習はできません。そこで、各パートの出席予定者数が6名を上回るパートは、2つの班（A班、B班）に分かれ、練習日 or 時間帯を替えて練習することになります。7月度の出席予定者数が、T2 & Bsは6名以内でしたので、この2パートは班分けせず、出席予定者全員がすべての定例レッスンへ参加します。

定例レッスンへの出席を表明されたメンバーの皆様へは、各パート毎にパートリーダーからそれぞれの練習日や時間帯について、7月分は6月中に連絡される予定です。

新型コロナウイルスへの感染防止対策を講じながらの練習再開です。
練習に参加される誰もが、潜在的な新型コロナ感染の陽性者である可能性あり。
下記の注意を読んで、各自で自覚的に行動して下さるようお願いいたします。

レッスンに参加するときの注意

- ① 出かける前に体温を測り、平熱であることを確認してください。体調良好であること。
- ② ねむかホールへ来る道中での接触感染・飛沫感染を防ぐ対応にどなたもしっかりと留意してください。
- ③ 鼻と口を覆える状態で練習します。練習時に使用するためのマスクなどをご持参下さい。
- ④ ねむかホールへの出入り口で、手指の消毒を実行してください。
- ⑤ 会場内では、前後左右に各1.5mの間隔を空けた位置で、待機&練習をします。
- ⑥ 会場内で交流される場合も、互いに距離をおき、マスクなどをして行なってください。
- ⑦ 練習中に適宜休憩します。休憩中、マスクなどを外しているときはおしゃべりしないでください。休憩中も感染防止対策を怠らず、廊下やトイレ等においても感染防止に極力留意をお願いします。
- ⑧ 練習時間前後のおしゃべり・お茶・食事・飲み会などは感染リスクを高めます。極力控えましょう。

男声合唱団「昴」 2020年7～8月のレッスン他 行事予定					備考	
7	1	水	声楽教室（千秋第1教室）	18:15	ねむかホール	
	3	金	声楽教室（中村教室）②	13:45	〃	
	3	金	T1パートレッスン	16:00	〃	
	3	金	O定例レッスン A班	18:00	〃	
	6	月	声楽教室（中村教室）①	14:30	〃	
	7	火	T2パートレッスン	18:00	〃	
	14	火	BR・BSパートレッスン	18:00	〃	
	16	木	声楽教室（千秋第2教室）	18:15	〃	
	17	金	技術部Meeting	16:15	〃	
	17	金	O定例レッスン B班	18:00	〃	
	19	日	運営委員会	11:00	〃	
	19	日	O定例レッスン A班	14:00	〃	
	31	金	O定例レッスン B班	18:00	〃	
8	3	月	声楽教室（中村教室）①	14:30	ねむかホール	
	4	火	T2パートレッスン	18:00	〃	
	5	水	声楽教室（千秋第1教室）	18:15	〃	
	7	金	声楽教室（中村教室）②	13:45	〃	
	7	金	T1パートレッスン	16:00	〃	
	7	金	O定例レッスン A班	18:00	〃	
	10	月	声楽教室（中村教室）①	14:30	〃	
	11	火	BR・BSパートレッスン	18:00	〃	
	16	日	運営委員会	11:00	〃	
	16	日	O定例レッスン B班	14:00	〃	16日の時間配分については、検討中です。
	16	日	O定例レッスン A班	15:30	〃	
	20	木	声楽教室（千秋第2教室）	18:15	〃	
	21	金	技術部Meeting	16:15	〃	
	21	金	O定例レッスン B班	18:00	〃	
	30	日	昴年次総会	14:00	〃	

定例レッスン 7月のパート別 班分け(6/27現在)								7月度定例レッスン、欠席予定者	
T1	出席予定者は9名							1名(山本直)	
	A班	小西	鈴木	立川	千秋			4名	
	B班	千秋	山本宏	吉岡	吉田	若園		5名	
T2	出席予定が6名以内なので、A班・B班共に6名全員							4名(高田、佃、寺脇、三谷)	
	A・B班	伊藤	大畠	更家	中谷	米川		5名	
Br	出席予定者は11名							2名(山本力、小泉)	
	A班	岩崎	榎本	大橋	向井	吉川		5名	
	B班	奥村	清水	仲谷	西村	春木谷	山口	6名	
Bs	出席予定者は5名、T2に同じ							5名(乾、小林、富樫、土井、三村)	
	A・B班	岡邑	川妻	はが	東尾	光本		5名	
		T 1	T 2	B r	B s				
全パート	A班	4	5	5	5			19	
	B班	5	5	6	5			21	

(メール通信) 本並先生より退院のメールが届きました。

From: 本並美德 Date: 2020年6月23日(火)
Subject: 退院しました

本並美德です

皆様永らくご無沙汰でした。入院していました。

皆様からのたくさんのメールを読みました。

コロナの現状はパンデミックとしては大変ですが、日本での現状を見、どんな注意をすればいいかわかってきました。22日間テレビでコロナ関係ばかり(二つの南北問題も)見てきましたので、おおよそのことは理解できています。コロナはやっぱり人間活動による、主に人間の社会的構造と格差、と地球環境破壊から起きていると僕は推察します。

これらを変える運動と合わせて打ち勝ってゆかねばなりません。

7月からの練習を提案のように注意をしながら、再開できると確信いたしました。負けてはいつまでもできません。僕も頑張ります！よろしくお願ひします。

<報告>私的なことですが、6月1日から22日まで入院、肝機能障害でした。休みに入ってから急に悪くなり、ついに強制入院、幸い立派な医者にお世話になり、一歩寸前で(もとのもとなみ)に戻りました。

まだ少し、病み上がりで4キロもやせ、足腰がもたもたしていますが、7月までに取り戻します。

今後ともよろしくお願ひいたします。

練習予定のことですが、次回技術委員会で方策を考えます。とりあえず楽譜はすべて持ってきてください。

山本様全員に再スタートをかけてください。

昴通信コーナーNo.4.

(転載) (参考資料)

力強い第一歩 大阪音楽大学 本山秀毅学長のFaceBookより (2020. 6. 16)

「コロナ禍の中の合唱活動、公衆衛生学の見地から」昨夜終了した。若き研究者三道ひかりさんをお迎えして、緊張感のある時間となった。

当日の実施側のスタンスとして「合唱活動再開に関する『絶対的な反対』『自己責任による推進』のどちらか一方の立場への誘導は一切行わない。あくまでも学問的な見地からの提案・提言とする」「基本的な考えは『命をまずは守る』『やってはいけないこと、自重すべきこと』を明確にしたうえで『ウイルスとの共存』をはかるための方向を探る」ことなどが申し合わされた。

参加者が800名を数えた事実は、現在、いかに多くの合唱を愛する皆さんが、この問題に直面して苦悩されているかを示していた。370もの事前アンケートへの回答は、合唱関係者が置かれている状況や思いを集約したものとして、おそらくわが国でも初めてとなる貴重なデータとなった(アップした円グラフの画像は、参加者の現在の合唱活動の現況)。

このデータをもとに、予め立案された進行に沿いつつ、基本的な事項から、様々な対策とその根拠、海外の取り組みの事例や、つい先日発表された、クラシック音楽公演運営推進協議会による「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」への言及などが主な内容となった。セミナーの全体像については、後日集約され発表される予定であるので、そちらを参照されたい。

ここでは当日なされた三道さんによる「提言」をご紹介しておきたい。この部分については私にとっても新たな視点であり、再開にあたっての示唆を含んでいると思っている。

* 新たな合唱の形～ウイルスと共に生きる歌～

○活動の段階的再開のステップ

- 第1段階 掲示されている国レベルの指針
- 第2段階 自治体レベルの指針、あるいはホールや劇場、練習会場などの指針
- 第3段階 合唱団員達からの活動目標の設定
何のために歌うのか? ※自分たちの目標設定
- 第4段階 既に行われている感染拡大防止事例の発見と全国普及(ヨーロッパの事例等の紹介)
- 第5段階 合唱活動や技術面での専門家の投入による活動内容のレベルアップ

* 「感染症と共存しながら活動する合唱」を形作る

第3段階における、自分たちの合唱団が「何のために歌うのか?」という内容を、今一度全員で確認し、その中で「再開の目標設定」を共有することが重要である。合唱団の活動と言っても、純粋に音楽的な内容にこだわり活動を続ける団体から、地域コミュニティの手段としての合唱団まで、その性格は幅が広い。これを機に自分たちの合唱団が「目指すもの」を明らかにすることによって、再開に当たって当面の目標が浮かび上がる、というものである。

その上で、第4段階に示されるような情報収集、共有を綿密に行い、実施の方法を検討する。また、今後行われるであろう第5段階におけるさらなる検証のもとにその内容を付加しながら活動を戻してゆく、というコンセプトである。

巷で「徐々に、慎重に、再開を目指す」と言う言い回しが聞かれるが、具体的には以上のような段階を踏むことが「徐々に」という形に当てはまるのではないだろうか。

○地域との連携による情報交換・感染症対策

地域にあった合唱活動の形の模索ーボトムアップ

- ・他の地域住民活動との連絡一連携
(例:ダンス団体、児童クラブ、高齢者クラブ等)
- ・役所の社会福祉協議会に問い合わせ、施設利用のための環境設定を協議
- ・地域医療を担う高齢者施設・地域包括ケア関係者への相談(特に感染対策について)
- ・地域のステークホルダー、医療関係者、エンジニアを巻き込んだ地域の合唱活動を育てる

*再開を目指すにあたり、合唱団内部だけで判断するのではなく、上記にあるように、他の地域住民活動、地域医療を担う人たち、またステークホルダーとの協調などを提案された。行政が後押しする少年少女合唱団など、既にその条件を満たすものも少なくない。しかし「情報から孤立している」団体があることも事実であり、これらの視点は、従来の合唱団活動に欠けていたものに気付きを与えてくれるものであった。また、不測の事態を受けての対応に重要な示唆を含んでいると感じた。

後日示される合唱連盟からの「ガイドライン」に基づいた動きがなされるにしても、その解釈を独りよがりなものにするのではなく、経験や知識のある人たちと共有するという視点は、まさに「公衆衛生学」の立場からの助言として重要なものであった。

*残念ながら、当日のすべての内容をここにご紹介することはできない。催しの後に寄せられた事後のアンケートは、苦悩する関係者の多くの異なる視点や思いを示していた。

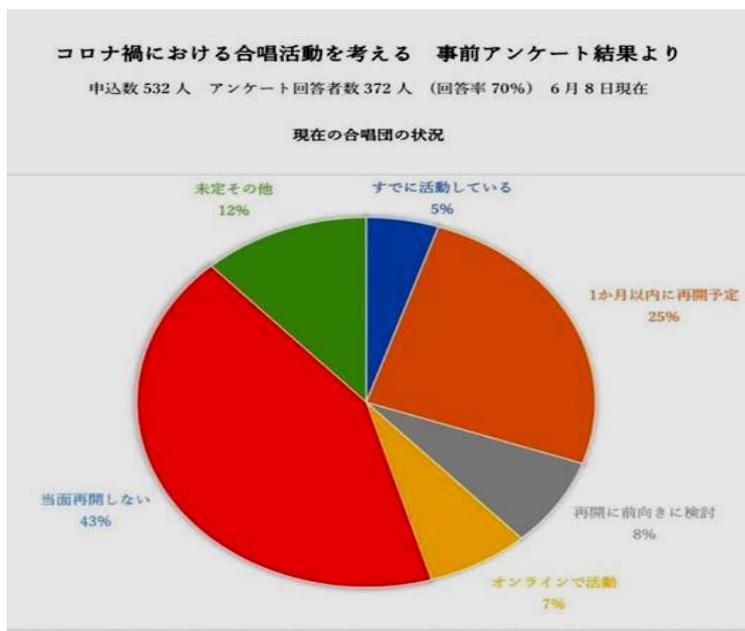
すぐにでも行動に移すための「新たな」指針になるものが得られなかったことに、苛立ちを感じられた方もおられたに違いない。考えていた方向性に水をさされた、とお怒りの向きもあるだろう。それらの思いを全て包摂して、再開への道筋を探ることが必要になることは言うまでもない。今回は三道さんによる、可能な限り客観的な立場で示された情報であったと感じている。

これらの議論に関わる、全ての人の共通の思いは、「そこに集う人々の健康を保ちながら」「一日も早く、合唱活動が従来の時間を取り戻すこと」であることについて、異論はないだろう。加えて「この事態から生み出される副産物」たとえば「インターネットを利用した新たな合唱活動の展開」に対する評価については意見が分かれるかもしれない。

今回の催しが、内容の評価から否定まで幅広い反応を呼び起こしたことは、この事態の中からの合唱活動再開に向けての重要な一歩だと感じている。皆さんがよくご存知のように、感染の有無を判定するPCR検査の是非について諸説が入り乱れているように、解決の道標は一つではないだろう。しかし、合唱を愛する人々の前に立ち塞がる「再開へのハードル」を超えるためには、科学的知見に謙虚に向き合いながら判断することは必須だと考えている。

また これらの試みはまだ緒についたばかりであって、今後も継続されるべきものだと考えている。

今回の催しが、極めてデリケートなテーマであるにも関わらず、極めて冷静に整理された内容を示してくださった三道ひかりさん、またこの企画を、事態の喫緊性に対応して、熱い思いと共に短期間で見事にまとめ上げた坂元勇仁氏、幅広い合唱活動の発展のために快くプラットフォームを提供してくださったコーラスカンパニー服部敏氏(今回の想定外の収益は、今後三道さんが関わられる実証実験に寄付される意向)、皆さんに心から敬意を表するものである。





▲保育の集いでも講演岩倉氏

歌い手

コロナ禍で合唱練習再開のアドバイス 岩倉政城先生

(前号のつづき)

の立ち位置も前後で互い遠くにボジションを取り、フェイスマスクの下からの飛沫が前の歌い手にかからない工夫をしましょう。

唄う合間のうがいと鼻洗、目のパチパチ洗い

唄う度に無数の唾液に包まれた飛沫が口から飛散します。この唾液中のウイルス量を減らすにはブクブクがいが重要です。歌の中休みには必ずうがいを励行します。ついでに水道水を手で掬い、少し鼻の入り口部に吸い込み洗いを2、3度行い、最後にティーンと

(承前) マスクとフェイスマスクの活用なお、フェイスマスク制作費は150円以内、作業時間は10分です。男性も生涯に一度はうたごえの愛唱歌にちなんで「カチューシャ」を着ける楽しみを味わってみましょう。

鼻をかんで下さい。お湯が出ればその方が効果的です。ついでに顔洗いと目のパチパチ洗いもお奨めです。万が一他者からの飛沫が口や眼、鼻から入っても、唄う合間のうがいと鼻洗いを洗顔を一緒にウイルス量を減らし感染機会を減少させます。



▲感染予防にまず手洗い

「さあ、打ち上げだ！飲みに行こう」、だけははしばらく我慢しましょう。飲み会からの感染でも「合唱団はクラスターをつくる」という勝手な憶測が拡がってしまうからです。また帰宅したら入浴し、髪は必ず洗いましょう。

5. 唄う権利は文化を守る闘い

上からのお達しに弱いのが日本国民の悲しさです。施設の人には上司から歌を唄う場合は会場を貸さないようにと指本を受けないのが一般的です。現場担当者を買収するのはやめましょう。上司、管理自治体まで交渉に出かけることが大切です。具体的な対策を文書にして説明し、場台に備えては練習終了後の床掃除を申し出るくらいは迫力で臨みます。特に公

なわ、会場の洗面所は一気に団員みんなを押し寄せる大混雑。2ケループに分けて時間を休ませてもらって乗り切ってください。

「さあ、打ち上げだ！飲みに行こう」、だけははしばらく我慢しましょう。飲み会からの感染でも「合唱団はクラスターをつくる」という勝手な憶測が拡がってしまうからです。また帰宅したら入浴し、髪は必ず洗いましょう。

6. 公演・発表会、再開に向けて

新型コロナウイルスの感染は接触感染が主体です。公演会場の換気が整っていない入場者の発熱チェックと手洗いが済んでいなければ、すべての観客のマスク着用で、たとえ隣の席に座っていても飛沫感染はあります。ステージと観客の距離をとるため前席5列を着席させない

配慮をする、ステージ側の換気と不足するときは扇風機を設置して客席側に流れが行かない工夫をする、歌い手を幾つかの群に分けて壇上の数を減らして可能な範囲で互いの距離をとりましょう。歌い手は合間に必ず薬屋でうがいをして唄う際の飛沫のウイルス数を減らします。

こうした具体策を他の音楽仲間や演劇の団体等と共有し、さらに連携して施設運営者や自治体や国と交渉することで合唱も演劇も映画も落語も再開に向けて走り出すことができます。うたごえは運動で芸術を守る、人間の歓びを拡げる大きなうねりを

国民とともに巻き起こしながら、うたごえ運動をますます発展させていきましょう。普段はうがい用の薬液を使うと口腔の善玉菌が減るので健康を害することがあるので、ステージに上がる時だけコロナウイルスの失活に有効なエッセンシャルオイル(シネオール、チモール等)やボビドンヨードの入ったうがい剤(商品名ではリステリン、イソジン等)を一時的に用いて飛沫の感染力を弱める。参考：うたごえみんなで唄う時も、このうがいをしてから臨むといいでしょう。(完)